

平成 2 5 年 9 月

伊東市議会 9 月定例会

決算大綱質疑要旨

伊東市議会

## 決 算 大 綱 質 疑 順 序

- |   |          |     |     |   |
|---|----------|-----|-----|---|
| 1 | 正風改革クラブ  | 佐々木 | 清   | 君 |
|   |          | 榎本  | 元彦  | 君 |
|   |          | 浜田  | 修一郎 | 君 |
| 2 | 公明党      | 鳥居  | 康子  | 君 |
| 3 | 民主党・刷新の会 | 四宮  | 和彦  | 君 |
|   |          | 鈴木  | 克政  | 君 |
| 4 | 輝 2 1    | 稲葉  | 富士憲 | 君 |
|   |          | 三枝  | 誠次  | 君 |
| 5 | 伊東元気の会   | 杉本  | 一彦  | 君 |
| 6 |          | 森   | 篤   | 君 |
| 7 |          | 重岡  | 秀子  | 君 |

## 決算大綱質疑要旨

正風改革クラブ 佐々木 清

榎本 元彦

浜田 修一郎

1 佃市政の「元点改基 いとう 8K 健磨共成」について、以下成果を伺う。

- (1) 夢まちづくり事業と地域応急処理費の執行率及びその成果について
- (2) 健康保養地づくり事業の実施状況について
- (3) 収納率向上事業の成果について
- (4) 選挙における投票率向上策について
- (5) 高齢者福祉に係る各種事業の成果について
- (6) 人口減少防止の観点から、子育て支援事業や児童福祉関連事業の実績について
- (7) ごみの減量化が進む中で、ごみ収集の現状と今後について

2 市内経済の活性化に係る各種事業について、以下伺う。

- (1) 農業振興対策事業における耕作放棄地の活性化策と有害鳥獣対策について
- (2) 水産業振興策における放流事業の成果について
- (3) 海水浴客の動向、及び、市営海浜プールの整備の見通しについて
- (4) 海水浴場等の維持管理について

- (5) 観光宣伝委託事業の費用対効果について
  - (6) 商工業振興補助事業の効果について
  - (7) 老朽化が進むインフラの整備状況と今後の整備方針について
  - (8) 緊急経済雇用対策事業における市内経済への効果について
- 3 常備消防の職員配置と緊急出動の実績等活動状況について伺う。
- 4 海拔表示と津波対策の実施状況について伺う。
- 5 以下の各特別会計に関し、事業実績をどのように評価しているか、また、どのような課題を認識し、新年度予算に反映させるか伺う。
- (1) 競輪事業特別会計について
  - (2) 国民健康保険事業特別会計について
  - (3) 介護保険事業特別会計について
- 6 本市の教育水準について、現状と今後の見通しについて伺う。

## 決算大綱質疑要旨

公明党 鳥居康子

1 平成24年度予算執行に当たり、「伊東創造」の集大成を目指した市長の経営方針である「元点改基 いとう8K 健磨共成」のための各種施策が進められてきたが、どのように評価されているか伺う。

2 平成24年度当初予算220億5,000万円は、国・県の動向が不透明な状況のもと、景気の低迷を反映した市民税や入湯税の落ち込みと固定資産税の評価がえの影響による市税の減収を見越したものであったが、歳入決算では、市税が予算現額を0.6%上回る決算ではあったものの、対前年度比3.9%の減となったことから、今後の市税収入をどのように判断されているか。

また、歳出決算では、経常経費の扶助費が対前年度比1.5%の増、人件費が11.5%の減、公債費が0.5%の減となったが、これらをどのように評価されているか。さらに、今後、これらがどのように推移していくと考えているか伺う。

3 財政調整基金は、対前年度比2億9,074万4,335円、16.3%の増、また、減債基金は、対前年度比3億2,002万1,415円、291.6%の増となっているが、この状況についてどのように評価されているか。

また、今後の基金の積み立てと運用に対する考えを伺う。

## 決 算 大 綱 質 疑 要 旨

民主党・刷新の会 四 宮 和 彦

鈴 木 克 政

地方公共団体における決算書とは、市民生活の向上を目的に予算段階で設定された諸施策に基づく各事業がその企図するとおりに目標を達成し得たか否かを評価する成績評価書ともいうべきものである。したがって決算書は、次年度以降の諸施策及び予算編成に生かされるべきものでなければならないと考える。以下こうした視点から、平成24年度決算について伺う。

1 佃市長は平成24年3月定例会施政方針において、平成24年度を「『伊東創造』に向けての集大成の年」、「地域主権改革など地方においては大きな変革期に当たる年」と位置づけ、「第四次伊東市総合計画に掲げる『ずっと住みたい また来たい 健康保養都市 いたう』の実現に向け、私を初め職員が一丸となって知恵と工夫を凝らし、これまで以上にスピード感を持ち、熱い情熱で誠心誠意取り組んでまいる」と述べられた。このような市長の施政方針は、平成24年度決算において、どのように具現化されたか、その自己評価を伺う。

(1) 「元点改基 いたう8K 健磨共成」によって「いたう8K」を磨き上げることはできたか、また、それによって、伊東市民の「夢と希望の実現」はされたか。

(2) 観光振興は成功したか。

(3) 市民の安全・安心を守るに十分な危機管理体制は確立できたか。

(4) 行政改革により「多種多様な行政課題に対し、柔軟かつ迅速に対応できる機動的な組織体制」が確立できたか。

2 平成24年度予算は、第四次伊東市総合計画の政策大綱に沿って諸施策が整理されていたが、これら施策に基づく事業の成果はどのようなものであったか、以下伺う。

(1) 「やさしさと笑顔にあふれる健康なまち」に係る事業について

ア 地域医療の充実について

イ 保健事業について

(ア) 健（検）診事業について

(イ) 予防接種事業について

ウ 地域福祉の充実について

(ア) 災害時要援護者避難支援システムの構築について

(イ) 個別台帳の作成と充実について

エ 国民健康保険事業について

(ア) 国保税の納付促進について

(イ) 納付意識の啓発について

(2) 「安全・安心で快適なまち」に係る事業について

ア 市民相談について

イ 市道及び河川の整備について

ウ 交通体系の充実について

(ア) 生活路線バス運行事業補助金について

(イ) 鉄道施設老朽化対策事業補助金について

- (3) 「心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち」に係る事業について
- ア 芸術・文化の振興における杢太郎記念館の運営コンセプト及び将来ビジョンについて
  - イ 異文化交流におけるヨーロッパ友好都市訪問団派遣とアゼルバイジャン共和国訪問について
- (4) 「場の力が創造する魅力・活力のあるまち」に係る事業について
- ア 「魅力ある観光地の創造と共成」に係る事業における伊豆半島ジオパークの認定について
  - イ 誘客宣伝等について
    - (ア) 伊東温泉大学対抗TRYアスロン事業について
    - (イ) 団体貸切列車「百花繚乱・伊東八景号」について
  - ウ 健康保養地づくり事業におけるオレンジビーチマラソンについて
  - エ 農林水産業の振興について
    - (ア) 農業環境の一層の向上について
    - (イ) 水産業の6次産業化について
- (5) 「まちづくりを進めるために」に係る事業について
- ア 市民参画推進事業及び広報広聴事業について
  - イ 自治会活動における夢まちづくり事業について



## 決算大綱質疑要旨

輝 2 1 稲 葉 富士憲

三 枝 誠 次

1 平成 2 4 年度一般会計歳入歳出決算について、以下伺う。

(1) 財政調整基金費について、なぜ不用額が生じたのか。

(2) 児童福祉費について、なぜ補正予算額を上回る不用額が生じたのか。

(3) 子育て支援医療費助成費について、なぜ当初予算額の 1 5 % を超える不用額が生じたのか。

(4) じん芥処理費について、なぜ前年度からの繰越額を上回る不用額が生じたのか。

また、これを見越して当初予算を作成し、あるいは補正予算を編成し、減額することはできなかったのか。

さらに、工事が継続していることを考慮すると、次年度に繰り越すことはできなかったのか。

(5) し尿処理費について、当初予算の 1 3 % を超える補正予算を編成したにもかかわらず、なぜ補正額の 3 6 % 以上の額が不用となったのか。

(6) 緊急雇用対策事業費について、当初予算の33%以上の補正予算を編成したにもかかわらず、なぜ補正額の52%を超える額が不用となったのか。

(7) 住宅管理費について、なぜ補正予算の5倍以上の額が不用となったのか。

2 本市が所有する施設の管理について、以下何う。

(1) 各施設の劣化の状況を、どのように把握し管理しているか。

(2) 施設管理に関し、必要な技術職員は充足されているか。

## 決算大綱質疑要旨

伊東元気の会 杉本 一彦

### 1 競輪事業特別会計歳入歳出決算について

(1) 全国的に競輪事業における車券売上額が減少傾向にあるなど、競輪事業を取り巻く環境は、さらに厳しくなることが予想されるが、市長は本決算をどのように評価しているか伺う。

また、本決算の状況を踏まえた上で、将来的に競輪事業を続けていくのか否か、どのような方向性を考えているか伺う。

(2) 競輪ファンを一層獲得するため、これまでどのような取り組みを行ったか伺う。

さらに、多くの市民に「KEIRIN」を身近に感じてもらうために、競輪場施設を市民に開放し、コンサートや各種イベント等、競輪開催以外の用途にも活用できるのではないかと考えるが、競輪場施設を競輪以外の用途として開放した事例はないか伺う。

### 2 一般会計歳入歳出決算第9款消防費における非常備消防費について

(1) 現在、市が把握している本市消防団が抱える課題について伺う。

(2) 団員の確保が大変難しくなっている分団もあると聞くが、団員確保に向け市としてどのような取り組みを行ったか伺う。

また、今後どのような方策を考えているか伺う。

(3) 市内の人口減少、高齢化、各地域の人口動態の変化等を踏まえ、将来に向け消防団の機構改革や再編成等について、これまで、どのような検討がされてきたか伺う。

3 一般会計歳入歳出決算第7款観光商工費における観光費について

(1) 新時代に向けた観光地として、観光再生のため、戦略的にどのような取り組みを行ったか伺う。

(2) 観光再生のための観光戦略という観点から本決算を検証した場合、平成24年度に実施した各種事業の成果と課題について伺う。

(3) 本市の各地域で行われているお祭りや観光行事については、行政と地域が一層の連携・協力体制をとり、職員が地域の魅力を再発見することで本市への誘客をさらに進めて行くことができると考えるが、市長の考えを伺う。

また、このような観点からどのような取り組みを行ったか伺う。

## 決算大綱質疑要旨

森 篤

平成24年度予算に賛成するに際して、予算執行上留意すべき、あるいは、期待すると  
して言及した以下の事項について、予算執行の過程においてどのように対処したか伺う。

1 「施策、事業の目的を議会において説明された内容よりもさらにかみ砕いて、市民の  
皆さんにわかりやすく丁寧に説明しておくことが大事である。その丁寧な説明にのっと  
り、丁寧な予算執行がなされなければならない。これまで以上にこのことに意を用いる  
よう期待する。」と言及したことに対しては、いかがか。

2 「伊東市国民保護計画では、放射能汚染の対処にかかわる資機材の整備は国において  
行うこととされているが、その状況を常に把握しておくことが大事である。これらの把  
握に関する作業は、特に予算を必要とすることなく、日常、県と十分に協議しておけば  
よいことであり、県の対応が遅ければ、これを督促しなければならない。

また、国民保護措置に関する啓発も大事なことであり、必ずしも大層な予算を使わず  
とも、インターネット等を活用するなどして可能となる。こうした啓発は、ある程度恒  
常的に行われていなければ、その効果が薄くなる。」と言及したことに対しては、いかが  
か。

3 「議会の審議を通じて、市長の言葉の端々にトップセールスであるとか、高位高官に人脈があるとかの言葉が聞かれる。市長個人の力量は大いに評価しているところだが、このことは、大所高所また長い目を見た場合、市長個人の力量にとどまらず、市民をも含めた自治体の総体としての組織力の強化、すなわち自治体経営の強化につながっていくことが期待されなければならない。

私は、伊東市の組織体としての品質の劣化が相当に進んでいるのではないかとの危機感を抱いていることもあり、平成24年度予算の執行に当たっては、市長の力量と組織体としての力量が、これまで以上にうまく結びつくことに特に留意をすべきと考える。」と言及したことに対しては、いかがか。

4 「予算の執行に際しては、単に金銭の支出にとどまらず、成果、効果を上げることが大事だが、成果、効果を上げるについては、自治体経営そのものが義を行うんだという気概を持てる状況を醸成しておくことが大事である。市民が利を求めて奔走する地域社会ではなく、利よりもまず義を行うこと、そして徳や礼節を重んじることを大事に考える地域社会を構築することこそが大事である。利は必ずその後についてくるものであるということを理解することが大事であると思う。」と言及したことに対しては、いかがか。

## 決算大綱質疑要旨

重岡 秀子

- 1 平成24年度決算における市税の状況に関し、以下3点伺う。
  - (1) 個人市民税微増の要因となっている年少扶養控除の廃止と16歳以上19歳未満の特定扶養控除の上乗せ分廃止に伴う本市への影響について
  - (2) 法人市民税の状況について
  - (3) 固定資産税における4億3,000万円余の減収の状況について
- 2 厳しい財政状況の中で、ふえ続ける民生費と人件費の抑制がここ数年の決算の特徴の一つであると考えますが、平成24年度における人件費に関し、職員数、臨時職員数及び諸手当の状況を問う。
- 3 24年度末で建設が終了した伊東市民病院の建設費の内訳と、病院事業債の償還計画の概要について伺う。

あわせて、新病院の建設が今後の病院運営にどのように影響すると考えているか伺う。